

「男、突っ走る！」

第
112
回

第一稿

作・壽倉 雅

1 木内家・雅也の部屋

雅也がスマホをスピーカーにして話している。

雅也「それで、眞榮田は大丈夫なの？」

2 東京・夏美のマンション

夏美がスマホで話している。

夏美「私も、まだ詳しくは知らないんだけど、結構な大手術だったみたい。私もね、ついさつき鈴木先生から聞かされたばかりなんだけど」

3 木内家・雅也の部屋

スマホのスピーカーで話している雅也。

雅也「病院は、どこか分かる？」

と、スピーカーから夏美の声が聞こえる。

夏美の声「名古屋の赤十字第二総合病院だつて。でも、今この状況だから、見舞いは厳しいと思う。だって今は、家族の面会だつ

て厳しいって言われてるしね。医療現場も、

コロナには敏感になってるから」

雅也「そっか……」

4 東京・夏美のマンション

夏美がスマホで話している。

夏美「もし何か気になることあったら、鈴木先生に直接聞いた方が良いかも。うん、うん、じゃあね。はい」

と、電話を切ると、不安そうな顔になる。

5 木内家・雅也の部屋

じっと座ったままの雅也。

N「スリジェネアカデミーレッスンは休校になり、仕事のキャンセルや延期も続き、今度は親友である眞榮田のお見舞いにも行けない……これほどコロナという存在を厄介に思ったことはありませんでした」

6 赤十字第二総合病院・全景（数日後）

7 同・病室

浩平がベッドで休んでいる――右腕を見てあげようとするが、びくともしない。

浩平、スマホを取り出すと、慣れないように左手で操作を始める――画面にたぐさんの通知が来ている。

浩平「めっ……ちや、来て……る……」

8 木内家・雅也の部屋

雅也がスマホで話している。

雅也「じゃあ、学校の授業もしばらくはリモートでやるんですか？」

9 名古屋芸術専門学校・屋上

喫煙所で煙草を吸いながら、鈴木がスマホで話している。

鈴木「そうなんだよ。うちーがいた時みた

いに、ワイワイ教室で授業ができないだろ。パソコンの画面越しにしか喋れないから、教室の空気感も全然伝わらないしさ。しかも一年生なんて、入学式からずっとオンラインだから、どういう学生なのかも全然分からねえんだよ」

10 木内家・雅也の部屋

雅也がスマホで話している。

雅也「オンライン授業なんて、僕らの時じゃ考えられないですもんね。でも、これからコロナのことを考えると、こういうオンライン授業っていうのが当たり前になるんじゃないかな」

11 名古屋芸術専門学校・屋上

鈴木がスマホで話している。

鈴木「ちゃんと時代の先端に行くのが、俺たちクリエイターだぞ。最近、ちゃんと書いてるのか？ おいおい、仕事やスリジエネ

だけやっとなってもいかんぞ。あの時みたい
に、キラキラした気持ちで、うちーはち
やんと創作活動やらないと。（と笑うと）
まあいろいろ頑張れや。眞榮田にも、ちゃ
んとうっちーからも連絡してやってくれ。
はいはい、じゃあ俺また今からリモート授
業だから。じゃあな」

と、電話を切り、煙草を始末すると、
中へ入っていく。

12 木内家・雅也の部屋

スマホを見ている雅也——浩平からメ
ッセージの通知が来る。

雅也「眞榮田……」

と、アプリを起動して、メッセージを
読む。

浩平の声「心配かけて悪い。脳腫瘍でしばら
く入院してる。右半身不随になってる」

雅也「右半身、不随……」

と、メッセージの返信をする。

雅也の声「せっかくフリーになるって時だっ

たのに……何か前兆とかあった？」

13 赤十字第二総合病院・病室

スマホで返信をしている浩平。

浩平の声「字が書けなかったり、ちよつと頭が痛いなんてのはあったけど、仕事の疲れだったとか思ってたんだよね。まさか、自分が脳腫瘍になるなんて思わなかったけど」

と、雅也から返信が来る。

雅也の声「なつ姐さんから、入院してるって教えてもらって、本当なら今すぐにでもお見舞いに行きたいんだけどね」

と、返信をする浩平。

浩平の声「まあ、今の時期はしょうがない。その気持ちだけで嬉しいよ」

14 木内家・雅也の部屋

スマホをじっと見ている雅也。

N 「眞榮田が大手術の末に一命は取り留めたことにホッとしていましたが、同じ県内の病院で、コロナさえなければすぐにでも会えるのに、親友のために何もできない自分が悔しくて仕方ありませんでした」

15 同・全景（夜）

16 同・雅也の部屋

雅也がパソコンで仕事をしている。

N 「広告業界では、コロナの影響で広告出稿をする企業や商店が減り、広告ページがなくなっただけで雑誌の厚みが突然薄くなったり、発行の継続が困難になった媒体もありました。僕も、仕事でずっと発行していたフリーペーパー『デイズ』はこれまで発行を続けてきましたが、コロナに関する内容を入れたWEBでの公開という、もはやフリーペーパーではない状態になってしまっていました」

17 同・玄関（早朝）

雅也が出てくると、背伸びをして、深呼吸をする。

N 「コロナのせいで、外出もほとんどしなくなり、僕は一日中パソコンの前に向かって仕事をし、外の空気もほとんど吸わなくなっていました。眞榮田の病気のこともあり、この頃はどんよりした気持ちが続いていました」

18 赤十字第二総合病院・病室

浩平がベッドで休んでいる。

N 「五月に入って、本人から聞かされたのは、眞榮田の脳腫瘍は悪性で、脳の中心部にあ
る視床という運動神経の機能がある場所に
あったのです。右半身不随で、車椅子生活
を余儀なくされ、学生時代元気にはしゃい
でいたあの頃のように動けないのかと思
うと、僕自身も辛いものでした」

19 木内家・雅也の部屋

パソコンの画面に向かって話しかけて
いる雅也。

N 「五月十四日、愛知県も含む全国三十九県の緊急事態宣言が解除されましたが、それでもすぐ外出するという空気でもありませんでした。また、リモート会議が顕著に出始めたことで、僕もパソコンの画面に向かって地方の人や近隣でも集まらない会議等でリモートツールを使用するようになっていました。緊急事態宣言が解除されると、仕事も少しずつ戻ってきたのですが、コロナ前にキャンセルや延期になった仕事が急に動き始めたこともあり、この頃の僕は『スリジェネアカデミー』のレッスンや会議にも参加ができない状態がしばらく続いていました」

20 同・全景（一ヶ月後）

N 「梅雨入りしてしばらく経った、六月のあ
る日のこと……」

21 同・雅也の部屋

雅也がスマホで話している。

雅也 「そう。ビデオレターだったらさ、遠方
にいる人もメッセージ伝えられるし、県内
にいる俺たちだけってお見舞いはできないけ
ど、気持ちは伝えられるでしょ」

22 東京・夏美のマンション

夏美がスマホで話している。

夏美 「良いと思う。このタイミングだから、
できうことだよね。え、うん……あ、ちよ
っと待って。メモするわ。(とメモを取り
ながら) えっと、メッセージは三十秒前後
で、画面の向きは横向きね。あ、拡張子
は？ MP4が望ましいのね。まあ、最悪
違う拡張子でも、ネットで変換できるサイ
トあるけどね。うん、分かった」

23 木内家・雅也の部屋

雅也がスマホで話している。

雅也「あのさ、ねっ姐さん。映像専攻の先輩
たちに、これ共有して、ビデオレターの素
材用意してもらえないかな。ほら、俺はシ
ナリオ専攻でしょ。眞榮田とかなっ姐さん
とか、同級生とは仲良かったけど、先輩た
ちとの接点がないからさ」

24 東京・夏美の部屋

夏美がスマホで話している。

夏美「うん、良いよ。映像以外にも、眞榮田
と親交のあった先輩たちたくさんいるから、
そういう人たちには、私から連絡しとく。
任せといて。じゃあ、また何かあったら連
絡するわ。あ、待って。締め切りは？ 七
月上旬ね。はい、了解です。じゃあね（と
電話を切る）」

N「こうして、眞榮田へのビデオメッセージ

企画は動き始めました」

25 木内家・雅也の部屋（数日後）

パソコンで編集作業をしている。

N 「なつ姐さんの協力もあり、ビデオレターを送ってくれた人は、同級生や先輩、後輩、学校の先生を含めて二十名近い方からいただき、慣れない編集ソフトを使いながら、僕は全くやったことのない映像編集に挑戦していました」

26 赤十字第二総合病院・全景（一ヶ月後）

N 「そして、七月の半ば、眞榮田が退院する日がやってきました」

27 同・病室

左手で荷物の整理をしている浩平——と、浩平のスマホに通知が来る。

浩平、開くと、雅也のメッセージを確認する。

雅也の声「眞榮田、まずは退院おめでとう。

コロナ禍でお見舞いにも行けないので、こんな企画考えました。下記URLをクリックしてみてください」

浩平「URL……？」

と、送られてきたURLをクリックすると、動画（ビデオメッセージ）が再生される。

28 ビデオメッセージ&赤十字第二総合病院の病室

各撮影場所からビデオメッセージが流れている。

木内家・雅也の部屋

雅也「眞榮田。（と手を振ると）病気の方はどうですか？ 最初、脳腫瘍で倒れたことを聞かされた時は本当にびっくりしました。でも、学生時代から持つてる眞榮田の熱い情熱とやる気で、リハビリも頑張ってもらって、また一緒に仕事しましょう。だって、

何だかんだ眞榮田と一緒に作ったのって、
これだけだからね」

と、『CREGG』の台本を見せる。

× × ×

浩平「『CREGG』だ、懐かしい」

× × ×

雅也「眞榮田とは、もっともっと作品を作り
たいと思ってます。とまあ、こんな話を俺
一人がダラダラと話してもどうしようもな
いので、今回はコロナの状況だからこそで
きた、面白い企画をご用意しました。では、
こちらをご覧ください。どうぞ！」

と、画面が暗転になる。

× × ×

訝しそうにスマホの画面を見る浩平。

× × ×

黒画面からフェードイン。

アパートの部屋に映る直也。

直也「眞榮田。元気になったら、またこのボ
ードゲームで遊ぶぞ。（とボードゲームの

箱を見せると）俺から言うことは、これだけだ！」

× × ×

車の運転席で映る正樹。

正樹「病気は大丈夫か？ 会社を辞めてこれからって時にこんなことになって、俺は驚きを隠せないんだけど、お前なら病気を克服して、また現役復帰できると思ってる。これから、もっともっといろんな映像撮ろうぜ！」

× × ×

マンションの部屋に映る夏美。

夏美「眞榮田、病気は大丈夫？ またみんなでダーツやろうね。私たちも先輩たちも待ってるからね。まずはリハビリ頑張ってね」

× × ×

スマホの画面上に文字の羅列が映る。

浩平「ん？（と音読をして）『眞榮田、病気の方は大丈夫ですか？ うっちーから、ビデオレター企画の話が聞かされたのです

が、完璧素材を用意することを忘れてました。なので、メッセージを画像データにしてうつちに送りました。おそらく私の文字が出ている間は、BGMで上手いこと編集してくれてると思います。まずは完全復帰を目指して、無理せず頑張ってください。私の周りの人たちは、やたら無理をする人の集まりなので。ではでは。福沢瑞枝』。

（と苦笑して）福沢ったら」

× × ×

千葉のアパートの部屋に映る拓海。

拓海 「眞榮田。ええ、病気のこと知って、とてもびっくりしています。まずはゆっくり休んで、病気を治してください。またみんなで遊びましょう」

× × ×

京都のアパートの部屋に映る篤志。

篤志 「どうも、あつぽんです。眞榮田、病気はどうですか？ 病気のことを聞かされて、驚いています。治療に専念して、完全復帰し

たらまたみんなで飲みに行くぞ！」

× × ×

じつと映像を見ている浩平。

× × ×

名古屋芸術専門学校の会議室に映る鈴木本。

鈴木「どうも！ 聞いてください、リモート授業ほど、大変でつまらないことはありません。何せあの頃は、容赦なく学生を指導し、ポトフォリオをけちよんけちよんに添削し、鈴木の本は『ドS』のSだなんて陰口叩かれることもありました。でも、今はコロナのせいで、こういうやり取りも全くなできません。そのタイミングで、今度は眞榮田が脳梗塞で倒れたと。驚くばかりですし、ここで定番なことを言うのは何ですが、『頑張れ』とは言いません。何故なら、もう眞榮田は十分に頑張ってるからです。君が回復することは、同級生や先輩や後輩、そして、俺といったたくさんの人たちが心

を長くして待っています。おそろくりハビリは時間がかかるかもしれませんが、眞榮田の完全復帰を待っています。次会った時は、完璧に仕上げたと思う自信作なポートフォリオを持ってきてください。またけちよんけちよんに添削してやります。学生への添削が、俺のビタミン剤です。必ず、ビタミン剤を持ってくること。では（と手を振る）」

画面がゆっくりと黒い画面にフェードアウトし、ビデオレターを送った人たちの顔が一つの画面に一斉に映る。

テロップが流れる『一日も早い復帰をお祈りしています』

× × ×

目に涙を浮かべて画面を見ている浩平——LINEでメッセージを送る。

浩平の声「あかん、これは泣ける。マジでありがとう」

29 木内家・雅也の部屋

雅也がスマホでメッセージを返信している。

雅也の声「いやあ、喜んでもらえて良かった。シナリオ専攻の俺が、全くやったことのない映像編集をした動画を、映像専攻である眞榮田に送るのもどうかと思ったんだけど」と、浩平から返信が来る。

浩平の声「大したもんだよ。本当にありがとう」

と、返信をする雅也。

雅也の声「コロナでお見舞いに行けないですよ。ビデオメッセージなら、遠方にいる人たちにも協力してもらえるところでさ」

30 赤十字第二総合病院・病室

スマホで返信をしている浩平。

浩平の声「さすがは、うちーだ。永久保存するわ、この動画」

N 「何とかビデオメッセージは完成し、眞榮

田にも喜んでもらえました。ビデオメッセージは、協力してもらった同級生や後輩、先生方にも送り、先輩たちにはなつ姐さんが送ってくれました。このビデオメッセージが、少しでも励みになってほしいと思っています」

31 住吉ダンススタジオ・表

雅也がやってくる。

N 「バタバタしていた仕事の方もひと段落が
つき、僕は休校以来来れていなかった『ス
リジェネアカデミー』に三ヶ月半ぶりに復
帰しました」

つづく